

(一社)日本詩人クラブ 11月例会・国際交流プログラム

わがちあう声、 〈わたし〉だけの声

～ラテンアメリカ詩へのいざない～

広大なラテンアメリカ——かつては帝国の版図

〈西洋〉との重層的な関係のなかで

〈わたし〉の声を生み出し、スペイン語を通じてわがちあってきた詩人たち

神話と近代、孤独と連帯、生と死……

せめぎ合う力のなかにいた

彼ら／彼女らの詩業をたどります。

第一部では、第一線で活躍する文学研究者お二人による講演

第二部では、映画をめぐる小講演と日本在住のラテンアメリカ詩人お二人の詩の朗読
みなさまをラテンアメリカ詩の世界にいざないます。多くのご参加をお待ちします。

PROGRAM

総合司会 岩重 桃平

第一部

会長挨拶 太田 雅孝

コーディネーター挨拶とゲストの紹介 久野 量一

講演1 「新大陸」といくつかの「ここ」から——ラテンアメリカ詩人たちの声の場所 | 棚瀬 あずさ

講演2 ラテンアメリカ女性詩人——抵抗の〈声〉を聴く | 駒井 睦子

休憩

第二部

小講演 声の継承——映画にみるアルゼンチン詩人たちの語り | 新谷 和輝

朗読と小講演 グレゴリー・サンブラノ (ベネズエラ)

朗読と小講演 ヤスキン・メルチャー・ラモス (メキシコ)

日本語訳朗読 | 新井 良和、吹木 文音

※会の終了後、アゴラホール (カフェスペース) で懇親会を行います。(懇親会は有料です)

2026年

11月14日(土) / 入場無料

13:30 開演〈17:30 終了〉会場 / 東京外国語大学 府中キャンパス

主催 / (一社)日本詩人クラブ

共催 / 東京外国語大学総合文化研究所、東京大学ラテンアメリカ研究センター (LAINAC)

連絡先 / 例会・国際交流担当理事 丹羽京子 (090-1107-1199) papiya.kn@gmail.com

※本イベントの一部はJSPS 科研費24K16022、26K03837の助成を受けています。

登壇者プロフィール

久野 量一

Ryoichi Kuno

東京外国語大学教授。ラテンアメリカ文学研究。博士(学術)。著書に『島の「重さ」をめぐって——キューバの文学を読む』(松籟社、2018年)、『ラテンアメリカ文学を旅する58章』(共編著、明石書店、2024年)など。訳書にマリオ・バルガス＝リョサ『激動の時代』(作品社、2025年)、ロベルト・ボラーニョ『鼻持ちならないガウチョ』(白水社、2014年)など。



棚瀬 あずさ

Azusa Tanase

東京大学大学院総合文化研究科准教授。イスパノアメリカ文学博士(マドリード・コンプルテンセ大学)。近現代詩を研究し、最近は、言葉と声、身体、記憶を介した主体の結びつきに関心を寄せる。著書に『El pensamiento poético de Rubén Darío: una estética en movimiento』(『ルベン・ダリーオの詩想——動きとしての美学』)。



駒井 睦子

Mutsuko Komai

清泉女子大学総合文化学部准教授。横浜生まれ。家族の転勤でブエノスアイレスに暮らしたことから、スペイン語とラテンアメリカ文学に出会う。東京大学大学院博士課程修了。博士(学術)。20世紀初頭のアルゼンチン、ウルグアイの女性詩人、特にアルフォンシーナ・ストルニ、フアナ・デ・イバルブル、デルミラ・アグスティニーニを研究。



新谷 和輝

Kazuki Niiya

名古屋外国語大学現代国際学部助教。1994年、岡山県生まれ。東京外国語大学大学院博士後期課程満期退学。チリやキューバなどラテンアメリカの映画を研究している。主な論文に「証言映画としての『チリの闘い』——闘争の記憶を継承するために」(『映像学』)など。



グレゴリー・サンブラノ

Gregory Zambrano

1963年、ベネズエラのメリダ生まれ。スペイン語文学博士。詩人、エッセイスト、文芸評論家、現代ラテンアメリカ文学の研究者。ベネズエラ詩の「90年代世代」に属する。詩集に『灰の前夜』(1990)、『静寂を制すること』(1994)、『水に没んだ街』(1997)、『オデュッセウスの不眠、その他の詩』(2000)、『静寂の覚書』(2002)、『秘密の地図』(2005)、『不眠の景色』(2015)。詩は日本語、英語、フランス語、ポルトガル語に翻訳されている。



ヤスキン・メルチャー・ラモス

Yaxkin Merchy Ramos

1985年、メキシコシティ生まれ。詩人、翻訳者、環境詩学研究者。2007年、メキシコシティで「野生の詩人たち」を結成し、詩の朗読や路上での芸術活動を展開。2009年、エリアス・ナンデイノ若手詩人賞受賞。メキシコ大学院大学で修士号、筑波大学で博士号を取得。詩集に『Poetechnics』、『創造の翼』(2023)など。ナナオ・サカキ詩集『砂漠の風のサボテン』、現代日本詩アンソロジー『Mandalas』(2022)など、日本語詩のスペイン語訳も多数手がける。日本とラテンアメリカの詩を中心に、エコポエティクス(環境詩学)を研究している。



会場
案内

東京外国語大学 府中キャンパス 研究講義棟 227教室

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

- JR中央線「武蔵境」駅乗り換え 西武多摩川線「多磨」駅下車徒歩 5 分(JR新宿駅から約40分)
- 京王電鉄「飛田給」駅北口より 多磨駅行き京王バスにて約10分「東京外国語大学前」下車



Google Map